



【ごかいち きよみ さん】若草

●石狩管内初の女性消防分団「千歳第3分団（愛称『TEAMクレインズ』）」の分団長を務める。TEAMクレインズに所属する16人の女性消防団員は、仕事と家事を両立しながら、市民の防火への意識を高めるためさまざまな活動に取り組んでいる。

「消火」から「防火」へ  
意識を高めるきっかけに

**ほ** かの仕事などをかかえながら、地域を守る活動に参加している消防団員。現在、市内では180人の団員が活躍しています。

消防団の活動は、火災現場での消火作業だけではありません。

13年間活動を続けている五ヶ市さんは、防火への意識を高めるため、町内会や学校で行う救命講習会、高齢の方の自宅訪問、子どもへの防火紙芝居の読み聞かせなどに取り組んでいます。

8月には、新たに女性消防分団「千歳第3分団」が発足し、分団長を務めている五ヶ市さん。

「私たち女性分団の役割は、『消火』ではなく『防火』と言えます。

例えば、ひとり暮らしをする高齢

の方を訪問すると、ストーブの上でタオルなどを干したり、お仏壇のろうそくの火をともしたままにしていることがあります。危ないことと気づかずに、普段の生活ではあたりまえになってしまっていることが多いですね」とやさしく語ります。

「火災に備えるのは皆さん自身です。私たちがお伝えすることを少しでも覚えてもらうため、会話の中で世間話を交えたり、団員が手作りで用意した布製のティッシュケースをお土産に渡したりするなどの工夫をしています。私たちの活動は、防火への意識を高めるきっかけづくりです」と五ヶ市さん。

活動を始めた当初と比べ、最近は救命講習会の依頼が増えているそうです。

「現在は消防職員といっしょに行っている講習会の活動が、救命講習指導員の資格を持つと団員だけで行うことができます。活動の幅を広げるため、16人の女性団員が指導員の資格を取得することが目標です」と使命感にあふれた眼で語ります。

災害はいつ、どこで起きるかわかりません。そのとき、その場に居合わせた人たちは、お互いに助けあわなければなりません。五ヶ市さんが消防団の活動を始めたきっかけは「家族に何かあったとき、私は助けられることができるのかを考えたため」と言います。

9月は防災月間です。災害が起きたとき、自分自身は何ができるのか。皆さんも考えてみませんか。

人のいる風景  
SCENERY OF PEOPLE



五ヶ市

KIYOMI  
GOKAICHI

紀代美

さん